

会議録

会議の名称	令和6年度第3回川越市上下水道事業経営審議会
開催日時	令和6年10月7日(月) 午後2時27分 開会 ・ 午後5時15分 閉会
開催場所	川越市役所 7階 第1委員会室及び第5委員会室
議長(会長) 氏名 *敬称略	議長:青木 亮(会長)
出席者(委員) 氏名(人数) *敬称略	青木亮(会長)、佐野勝正(副会長) 中野敏浩、村山博紀、吉野郁恵、柿田有一、片野広隆、桐野忠、小ノ澤哲也、山崎宏史、宮岡寛、新井康夫、山口陽子、野口典孝、菅間和範、横山三枝子、村上直、佐久間佳枝 の各委員(18名)
欠席者(委員) 氏名(人数) *敬称略	なし
事務局職員 氏名(職名)	内田真(上下水道局長) 【財務課】 馬橋 洋(課長)、内田拓享(副課長) 【給水サービス課】 堀 尚吾(参事) 【事業計画課】 小林 武(上下水道局副局長兼課長) 【水道課】 新井賢一(参事) 【下水道課】 西村雅喜(課長) 【上下水道管理センター】 石戸祐仁(所長) 【総務企画課】 矢野雄一(上下水道局副局長兼課長)、佐藤俊一(副課長)、高田英明(副主幹)、高梨義久(主査)、石塚優(主査)、児玉陽介(主査)
傍聴人(人数)	1名
会議次第	別紙のとおり

配付資料

(事前配付資料)

○令和6年度第3回川越市上下水道事業経営審議会次第

○資料1-1

川越市上下水道事業経営戦略(令和7年度版)第1章~第4章(案)

○資料1-2

川越市上下水道事業経営戦略 審議会意見の反映状況等

○資料1-3

川越市上下水道事業経営戦略(令和7年度版)第5章(案)

○資料1-4

公共下水道事業 ~投資財政計画シミュレーション~

○資料1-5

投資・財政計画(収支計画)公共下水道事業会計

【B-0案、B-1案、B-2案】

○参考資料

投資・財政計画(収支計画)公共下水道事業会計

【A-0案、A-1案、A-2案】

○資料2-1 令和5年度決算の概要について(水道事業会計)

○資料2-2 令和5年度決算の概要について(公共下水道事業会計)

○資料2-3 令和6年度予算の概要について(水道事業会計)

○資料2-4 令和6年度予算の概要について(公共下水道事業会計)

(当日配付資料)

○川越市上下水道事業経営戦略(令和7年度版)第5章

59頁、72頁、73頁

議事の経過	
発言者	議題 ・ 発言内容 ・ 決定事項
	<p>1 開会</p> <p>【傍聴希望者の確認】 議長から傍聴希望者の有無について確認が行われ、1名の傍聴希望者に対して入室の許可がなされた。</p> <p>2 議題 (1) 諮問事項 川越市上下水道事業経営戦略の改定(案)について ①第1章～第4章(修正案)</p>
議長	
事務局	資料1-1及び資料1-2に基づき、第1章から第4章について説明
副会長	本文中の語尾に「～する必要があります」という表現が使用されている箇所があるが、経営戦略は上下水道局が主体となって策定するものなので、「～してまいります」などの表現に適宜見直してほしい。
事務局	改めて本文の見直しを行い、必要に応じて表現を修正させていただきたい。
委員	資料(1-1)26頁に「管種別に設定した本市独自の更新基準年数」と記載されているが、内容について確認させていただきたい。
事務局	水道管路の法定耐用年数は40年だが、それでは更新しきれないので、実際の更新計画では漏水事故の多い塩ビ管は35年、耐震管のポリエチレン管やダクタイル管は80年といったように管種別に更新基準年数を設定している。
議長	それは文書等に掲載されているものなのか。
事務局	老朽管更新計画等に掲載されており、それに基づいた運用をしている。
委員	資料(1-1)26頁に「老朽化の上昇を可能な限り抑えた」と記載されているが、色々と対策を講じたとしても老朽化率は上昇していかざるを得ないのか。
事務局	管路経年化率は法定耐用年数を基準としているため、ある程度上昇することは否めないが、先ほど説明した管種ごとの更新基準年数に基づき、できる限りその上昇を緩やかにする計画を策定する必要があるため、このよ

	うな記述としている。
委員	実際の維持管理の方法とは違うが、管路経年化率としては上昇してしまうということによいか。
事務局	経営比較分析表は、総務省による統一した基準に基づき作成しているので、数値としてはこうした形になってしまうが、実際の維持管理は老朽化の状況を確認しながら行っているものをご理解いただきたい。
議長	表現については事務局で改めて確認していただきたい。
	②第5章（公共下水道事業）
事務局	資料1－3に基づき、第5章（公共下水道事業）について説明 ※「投資の目標」と「財源の目標」について、投資・財政計画のシミュレーション説明に先立ち、先行して説明したものである。
副会長	資料7 4頁の投資の目標値について、この記載だけでは例えば単年度目標値なのか累積目標値なのか、数値の内容が分からない。一般の方が見て分かるような内容に仕上げなければならないので、委員の皆さんにも内容を理解していただいたうえで、内容の説明に進んでいただきたい。
事務局	説明が不足しており申し訳ない。 投資の目標については、川越市上下水道ビジョンの資料編2 2頁・2 3頁をご覧ください。 「長寿命化管きょ延長」は、下水道管路において修繕や改築などの長寿命化対策を行った管路延長である。「管きょ耐震化率」は、全ての管きょのうち耐震化対策を実施した割合であり、「有収率」は、汚水処理量に対する使用料の徴収対象となった水量の割合である。 財源の目標については、資料1－1の経営比較分析表をご覧ください。「企業債残高対事業規模比率」は、事業規模に対して企業債残高がどの程度の割合になっているのかを示したものであり、「経費回収率」は汚水処理に要した経費を使用料収入でどの程度賄えているかを示したものである。また、「累積欠損金比率」は、営業活動の結果発生した損失が当該年度で処理できずに、複数年度にわたって累積したものを示している。なお、「内部留保資金」については、この後のシミュレーションの中で説明させていただきます。 用語説明については、資料に追記する形で対応していきたい。
副会長	本編の表や図に関しても、掲載した意図を記載した方が分かり易いと思うので確認のうえ対応していただきたい。

事務局	資料 1 - 4、資料 1 - 5 及び参考資料に基づき、投資・財政計画（公共下水道事業）に係るシミュレーション結果について説明
議長	<p>それでは、ここで一旦 10 分程度の休憩を挟みたい。</p> <p style="text-align: center;">----- 再 開 -----</p>
副会長	<p>※事務局による本編第 5 章（案）の説明に入る前に、副会長より事業を取り巻く現状や課題、また、投資及び財源の目標や前提条件を踏まえたうえで、シミュレーション結果（B - 1 案を採用するに至った経緯）について改めて各委員あてに説明がなされた。</p>
事務局	資料 1 - 3 に基づき、第 5 章（公共下水道事業）について説明
副会長	<p>（各委員に対して）話の流れとしては大体よろしいか。事務局としては、将来を考えると B - 1 案を検討しており、本編第 5 章については本案を基に構成されている形となっている。</p> <p>数値で確認させていただきたいところがある。資料 83 頁の投資・財政計画における建設改良費について、令和 7 年度からの 3 年間はその後と比べて費用が低くなっているが、どのような事情によるものなのか。</p>
事務局	<p>例年であれば、令和 5 年度決算値である 18 億円程度の数値で推移しているが、令和 6 年度については、ふじみ野市と共同で進めている川崎調整池の整備事業に係る負担金が予算計上されていることや継続事業との兼ね合い等の影響で数値が大きくなっている。</p>
副会長	<p>負担金などの金額を考慮しなかったとしても、投資の目標には影響しないのか。</p>
事務局	<p>令和 7 年度以降の金額については、やらなければならない事業の積み上げで計画を策定しているため、その点は問題ない。</p>
委員	<p>資料 75 頁の公共下水道施設改良費について、10 年間の金額は現在の経営戦略と比較して 100 億円程度増加している。流域下水道費はほとんど変わっていないので建設費の高騰等はあまり関係なく、ストックマネジメント計画の前倒しによるものではないかと考えているが、この点について確認したい。</p> <p>続いて、資料 76 頁の財源の目標について、指標項目の順序が現在の経営戦略から入れ替わっているが、何か意図があるのか。また、経費の面で</p>

	<p>は維持管理負担金は減価償却費の次に金額が大きいので、そちらを先に記載した方が良いのではないかと。また、維持管理負担金については、川越市が属している荒川右岸流域下水道の単価は他の流域に比べて安価であるため、値上げとなっても他と比較してまだ安価であるという事実を伝えても良いのではないかと。</p> <p>最後に、資料77頁の図5-1については、現行の使用料水準によるものだと思うが、その旨の記載がないため、どの時点における図なのかを追記した方が良くと思う。</p>
事務局	<p>投資計画の事業費については、計画の目標値に向けて徐々に更新率を上げ、そのまま高い水準で更新率を維持していくという計画になっているため、全体的に費用が上昇している。また、人件費等様々な物価上昇を加味していることも影響していると思われる。</p> <p>続いて、財源の目標については、企業活動継続のためには、やはり一定程度の内部留保資金を確保する必要があるため、投資・財政計画のシミュレーションにおいても内部留保資金の見通しを最初に説明させていただいた。その関係で、説明の順序についても整合を図ることとしたため、記載順を変更したものである。</p> <p>流域下水道維持管理負担金については、ご指摘のとおり収益的支出に占める割合が動力費や修繕費よりも大きいので、記載順を変更したいと思う。また、他の流域単価と比べてたしかに安価であるため、その旨の記載について検討させていただきたい。</p> <p>また、図5-1については、現行の使用料水準に基づくものであることが分かるような文章に変更したい。</p>
委員	<p>個人的には、公共下水道施設改良費の100億円増加が少し気になっている。改定率を下げるには、もう少し長期間で実施するしか方法はないのではないかと考えているが、そのような検討の余地はあるのか。</p>
事務局	<p>公共下水道施設改良費については、老朽管の更新や布設替えに係る費用であり、老朽化の進行を少しでも食い止めていくためには、この位の水準が必要であるということで計画したものになる。</p> <p>投資計画としては、先ほどご説明したB案に基づいており、投資のスピードとしては少し緩やかに上昇していくような形の計画になっているので、投資量としてはこの水準で実施させていただきたいと考えている。</p>
委員	<p>考え方としてはわかった。</p>
委員	<p>現在の経営戦略には内部留保資金の確保すべき水準として、災害復旧費6箇月分の費用などを記した図を掲載しているが、改定後の戦略にも同様</p>

事務局	<p>に掲載されるのか。</p> <p>内部留保資金については、先ほどシミュレーションの中でもお示したとおり、資本的収支不足額への補填財源が多い年度で23億円程度、日々の運転資金として多い月で16億円程度の支払いが発生していることを踏まえると、25億円という金額は最低水準であると考えている。</p> <p>現在の経営戦略では流域下水道維持管理負担金、企業債元利償還金、災害復旧費のそれぞれ6箇月分を内部留保資金として確保すべき水準としているが、正しい考え方が定められているわけではないため、今回の改定に当たってはこのような形をとらせていただいている。</p>
委員	<p>資料75頁の表5-2について、現在の経営戦略と計画期間が重複しているR7からR11の各年度の建設改良費を確認したところ、24%から68%程度上昇している。また、資料77頁の図5-1についても現在の経営戦略から内容がだいぶ変わっているように見える。見通しを立てた上で計画を策定していると思うが、その見通しが私には少しぶれているように思える。予測と実際の結果が違うことは当然だとは思いますが、これは許容の範囲内なのか、また、こうしたことを踏まえて計画の見通しを立てているのか確認したい。</p>
事務局	<p>表5-2の投資計画については、現在の水準から目標値に向かってどの程度の工事量を必要とするのかを計画部門にて算出し、その結果を積み上げて投資・財政計画における計画値としている。数値だけの比較だとおっしゃる通りの部分はあるが、改めて算出した結果ということでご理解いただきたい。</p> <p>図5-1については、現在の経営戦略では投資・財政計画における収益的収入・支出の見通しを反映したものとなっているが、今回の改定では、投資・財政計画よりも手前にある頁なので、企業債の見通し(図5-2)を含めて現行の使用料水準のまま推移した見通しを示したものになる。</p>
事務局	<p>資料(1-1)37頁に令和4年度までの進捗状況について記載しているが、「長寿命化管きょ延長」「管きょ耐震化率」共にB評価(おおむね順調)ではあるが、若干遅れていることもあり、残りの計画期間は少しペースアップする必要があるため、建設改良費が上昇している側面もある。</p>
議長	<p>第5章については、基本的にB-1案を基に構成されていると思うが、部分的に使用料改定を行わないB-0案を基にした図表が掲載されているため、その旨を注意書き等で加えた方が分かり易いと思うので、事務局の方で検討していただきたい。</p>

事務局	<p>他の頁でも同様のご指摘をいただいているので、図表の前後で補足させていただきます。</p>
委員	<p>今回の経営戦略の資料は、第1章から第4章にかけて現状把握や課題の抽出を行い、第5章の投資・財政計画はそれらに対するアンサーに当たる構成であると認識している。一方で、管きょ耐震化率については、資料(1-1)46頁にある事業の課題に記載されていないにもかかわらず、第5章で耐震化を進めていかなければならないという話が急に出てきているように感じる。</p> <p>構成として、耐震化が問題であるならば、第4章までの間にどのように進めていくのか記載し、第5章でそれに対する財政上の措置を示して繋げていくと良いのではないかと。</p> <p>また、審議会場で議論する領域ではないかもしれないが、46頁に記載されている入札の不調については、実態としての危機感として誰も応札してくれないという話はあるのではないかと。今後、5年から10年の間でもっと大きなウエイトを占める問題になるのではないかとという危機感があるので、例えば今後の対策について資料(1-3)86頁に追記する等してみても良いのではないかとと思うが、この点についていかがか。</p>
事務局	<p>46頁の事業の課題については、おっしゃる通り第5章に繋げていく橋渡しにならなければいけない箇所であるため、記載の仕方を工夫したい。</p> <p>入札の不調に係る内容についても、原案で記載している「技術者不足」は、受注者側だけではなく、職員側の課題にも繋がってくる内容であると思うので、こちらについても、もう少し踏み込んだ内容にできないか、記載箇所も含めて検討していきたい。</p>
議長	<p>今回は、投資・財政計画に係る重要な話があるので、じっくり考えた方が良いという方もいるかもしれないので、もしまだ何か質問等あれば、事務局まで連絡していただいて、回答は次回行うということでもよろしいか。</p>
事務局	<p>次回の審議会では、水道事業に係る投資・財政計画の説明を予定しているが、水道事業と考え方に大きな差異があるものではないので、下水道事業に係る質問等が出たとしても対応できるよう、準備を進めていきたいと考えている。</p>
議長	<p>それでは、議題(1)についてはここまでとし、議題(2)報告事項に移りたい。時刻は17時を過ぎているが、次回以降の日程や議題も非常にタイトであるため、本日は説明を手短にいただき、質問に対する回答は次回の審議会場で実施していただきたいと考えているがいかがか。</p>

副会長	<p>本案件については、これまでも1時間程度時間がかかっているので、報告事項は次回に実施した方が良いのではないかと。</p>
事務局	<p>会長からのお話しもありましたので、本件については報告事項となりますので、資料を確認していただいたうえで、ご不明な点等があれば事務局までご連絡いただき、回答させていただくという形でよろしいかと。</p>
議長	<p>それでは、報告事項については、各自資料を確認のうえ事務局まで問い合わせさせていただき、それを基に次回の審議会で回答する形にさせていただきたい。</p>
事務局	<p>3 その他 今後の経営審議会の開催日程等について、以下のとおり説明した。 第4回経営審議会 令和6年10月29日（火）午後2時開会 会場：第1委員会室及び第5委員会室 第5回経営審議会 令和6年11月21日（木） 開会時間及び開催場所は別途連絡</p>
副会長	<p>4 閉会 閉会の挨拶</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>